

日本産オオトゲアリヅカムシ属2種（ハネカクシ科、アリヅカムシ亜科）の分布記録の再検討

野村周平

国立科学博物館動物研究部 (nomura@kahaku.o.jp)

Review of Distributional Records of *Lasinus mikado* and *L. monticola* Known from Japan (Staphylinidae, Pselaphinae)

Shûhei NOMURA

Abstract. Distributional records of the pselaphine species, *Lasinus mikado* Bekchiev *et al.*, 2013 and *L. monticola* K. Sawada, 1962 shown in Nomura (2014) are reviewed and supplemented. The following prefectures are added to the distributional area of *L. mikado*: Aomori, Iwate, Miyagi, Aichi, Shiga, Nara, Osaka, Wakayama, Gifu, Kagawa, Tokushima, and the followings to that of *L. monticola*: Iwate, Akita, Miyagi, Aichi, Fukui, Shiga, Hyogo, Okayama, Kagawa, Tokushima, Kumamoto, Shimo Koshiki-shima Is. (Kagoshima Pref.).

日本産のオオトゲアリヅカムシ属 *Lasinus* Sharp, 1874 は、本土から以下の5種、オオトゲ（以下、和名語尾は省略）、ミカドオオトゲ、ヤマオオトゲ、ヤマモトオオトゲ、ナガイオオトゲと、離島からヤクオオトゲ、アマミオオトゲ、サオリオオトゲ、オキナワオオトゲの4種、合計9種が知られ、野村 (2014) が分布を含めて解説した。これらのうち、ミカドオオトゲ *L. mikado* Bekchiev *et al.*, 2013 とヤマオオトゲ *L. monticola* K. Sawada, 1962 の2種については、分布記録の中にいくつかの誤りや漏れが散見され、またその後追加された記録や手元の未報告の記録や標本もふくめて、分布域の修正が必要となったので、以下に報告する。

本研究につき、これまでに貴重な標本を筆者にご恵与くださった、以下の方々に厚く御礼申し上げる：上野俊一、上野輝久、澤田義弘、友国雅章、直海俊一郎、藤谷美文、穂積俊文、的場績、吉富博之、吉澤和徳（アイウエオ順、敬称略）。

1. ミカドオオトゲアリヅカムシ *Lasinus mikado* Bekchiev *et al.*, 2013 (図1A)

＜既報による分布域の修正＞野村 (2014) では、北海道、国後島、本州、四国の各地から知られていることを示したが、同論文の分布図では、国後島における分布の表示が誤っており、現在まで分布記録の無い択捉島に分布するように示されていた。また同分布図では岐阜県の記録がないが、その後野村・亀澤 (2016) が本種の分布を記録しており、岐阜県も分布域として追加する。また、Nomura *et al.* (2013) によって既に報告されていた伊豆大島の記録も見落とされていたので、本報にて追加する。さらに野村・宮田ほか (2015) では、

香川県、徳島県から記録が追加された。これにより本種は、四国では4県すべてから記録された。

＜新たに記録される産地＞〔青森〕1♀、今別町綱不知, 30. vii. 1987, SN [岩手] 1♂, 花巻市安野, 2. x. 1992, SN [宮城] * 1) 砥石沢, 奥新川 (前者は大崎市, 後者は仙台市青葉区と思われる), 秋保町 (現仙台市太白区) 二口峡, 石巻市入津, 歌津町石泉. [愛知] 1♂1♀, 東加茂郡下山村花山, 30. iv. 1984, 穂積俊文採集; 1♀, 同旭町伊熊神社, 22. iv. 1990, 穂積俊文採集 [滋賀] 1♂, 永源寺町箕川, 5. X. 1998, 友国雅章採集 [奈良] 1♂1♀, 春日山, 8. x. 1991, 上野輝久採集 [大阪] 1♂, 池田市土々呂美, 25. v. 1985, SN [和歌山] 1♂, 日置川町伊古木, 23. i. 1997, 的場績採集; 1♂1♀, 大塔山, 28-29. vi. 1981, 直海俊一郎採集; 1♂, すさみ町江須崎春日神社, 9. iii. 2002, 澤田義弘採集。

2. ヤマオオトゲアリヅカムシ *Lasinus monticola* K. Sawada, 1961 (図1B)

＜既報による分布域の修正＞本種はこれまで、本州（福島県以南）、四国、九州の各地から知られていた。しかし、既知の分布域に囲まれながら、いまだ記録のない県も散見される。その後、野村・宮田ほか (2015) は、徳島県、兵庫県から本種を新たに記録し、香川県からの記録を確認、追加した。また野村 (2015) によって、九州の離島からは初めて、鹿児島県下甕島から記録された。一方、渡

註1) 本誌に別途投稿中の宮城県ならびに東北地方諸県のアリヅカムシ相の再検討で追加される宮城県内の新たな産地を含めてある。

註2) 本記録は、岡山県在住の藤谷美文氏の依頼で同定した標本のデータを引用した。これまで岡山県からは唯一の記録である。

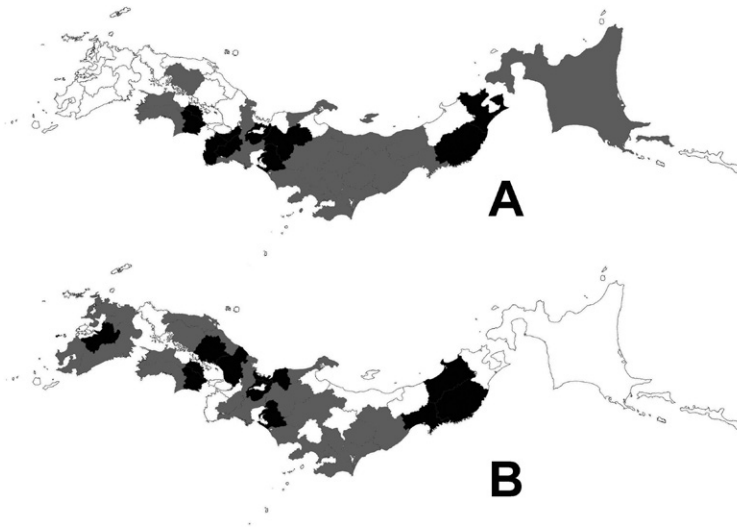


図1. ミカドオトゲアリヅカムシおよびヤマオトゲアリヅカムシの日本本土における分布図（灰色：当該種の既知の分布記録がある都道府県および島嶼；黒：今回新たに分布域に追加された都道府県および島嶼）．
A：ミカドオトゲアリヅカムシ；B：ヤマオトゲアリヅカムシ．

辺（1989）が宮城県から報告した本種（ヤマトオトゲアリヅカムシと誤記）」の記録（本砂金，川崎町と思われる）も，野村（2014）では漏れていた。

<新たに記録される産地> [岩手] 1♂2♀，遠野市新里，1. x. 1992, SN; 7♂4♀，花巻市安野，2. x. 1992, SN [秋田] 3♀，鳥海山善神，19–20. vi. 1980, 直海俊一郎採集 [愛知] 1♂，瀬戸市定光寺，21. iv. 1973, 穂積俊文採集；1♀，同左，16. ix. 1979, 穂積俊文採集；1♂，足助町伊勢神峠，9. vi. 1995, 吉富博之採集 [福井] 1♂，夜叉が池，15. vii. 1992, 吉澤和徳採集 [滋賀] 1♂，永源寺町箕川，5. x. 1998, 友国雅章採集 [岡山] * 2) 真庭市蒜山，新見市草間羽代。 [熊本] 1♂，植木町，10. iv. 1981, 直海俊一郎採集；1♂2♀，水上村市房山，12–13. v. 1985, SN; 2♂，泉村白鳥山，5. iv. 1987, SN; 1♂2♀，椎葉村白鳥山，13. vii. 1996, 上野俊一採集。

引用文献

- Bekchiev, R., P. Hlaváč and S. Nomura, 2013. A taxonomic revision of Tyrini of the Oriental region. V. Revision of the genus *Lasinus* Sharp, 1874 (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *Zookeys*, 340: 21–42 (doi: 10.3897/zookeys 340.5980).
- Nomura, S., H. Kamezawa and S. Arai, 2013. A review of pselaphine beetles (Coleoptera, Staphylinidae) from the Izu-shotō Isls., Tokyo, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 3: 31–43.
- 野村周平, 2014. 日本産オトゲアリヅカムシ属 (*Lasinus* Sharp, 1874: Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) の分類学的ノート. さやばねニューシリーズ, (16): 1–12.
- 野村周平, 2015. 鹿児島県甌島列島のアリヅカムシ相に関する記録. さやばねニューシリーズ, (18): 16–19.
- 野村周平・亀澤 洋, 2016. 岐阜県のアリヅカムシに関する記録と考察. さやばねニューシリーズ, (21): 18–25.
- 野村周平・宮田隆輔・宮田俊江・藤本博文, 2015. 中国・四国地方におけるオトゲアリヅカムシ属 2 種の記録. さやばねニューシリーズ, (18): 33–34.
- 渡辺 徳, 1989. 宮城県の甲虫. 日本鞘翅学会刊, 364 pp., 笹氣印刷出版, 仙台市.

(2018年1月18日受領, 2018年3月2日受理)

【短報】山口県におけるチンメルマンセスジゲンゴロウの初記録

チンメルマンセスジゲンゴロウ *Copelatus zimmermanni* (Gschwendtner, 1934) (図1) は，体長 5.3–5.5 mm 程度の長楕円形のゲンゴロウで，オス交尾器中央片は太短くごつごつして先端が嘴状に尖り，他のセスジゲンゴロウ属のものと比較して特徴的である (図2)。またセスジゲンゴロウ属の中では本種のみ上翅に 10 条の条溝を備え (他種は 5 もしくは 6 条) (森・北山, 2007)，外見上区別のつきにくいセスジゲンゴロウ属の中において，メ

スでも識別が可能である。

本種は Gschwendtner (1934) によって China (Hangchow) から記載され，日本における初記録は Satō (1983) によるトカラ産の 1♀ と五島産の 1♂ である。これは，本種の原記載以降も初めての記録とされている。その後の日本における記録は，本州 (秋田県，静岡県)，九州 (福岡県，佐賀県，長崎県，熊本県，宮崎県，鹿児島県)，南西諸島 (沖永良部島，沖繩県久米島，南大東島) (多比良・北野, 2000; 中島・井上, 2004; 森・北山, 2007) と分布の中心は九州から南西諸島にかけてであり，本